

(様式1)

## 自己評価票

作成日 平成23年11月24日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101474		
法人名	株式会社ハートピア		
事業所名	ケアホーム日なた家	ユニット名	さくらユニット
所在地	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町1739		
自己評価作成日	平成23年11月24日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870101474&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870101474&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「明るく元気いっぱいスマイル日なた家」をモットーに、入居者も職員も元気でいられる雰囲気作りに努めています。施設内に一步入れば、中庭のある開放的な空間と日差しが入り込んだ明るい窓辺があり、入居者と職員が共に笑い合い心も体も健康的な気持ちになることができます。日頃のケアについては、入居者に対して人生の先輩である事を忘れないような言葉づかいをするように意識しています。また、ご家族に対しても何度も面会に来ていただけるような気持ちで接しています。見学にいらっしゃる方のほとんどが「認知症の方が入っているように感じないですね」と話して下さることが職員の励みとなっています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれたものにするとともに、利用者が地域社会の一員として生活することを支えます」という内容を倫理綱領に掲げ、職員は常に明るく優しく支援に努めている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、避難訓練など施設内行事開催時に地域住民へお知らせしている。また、利用者は近くの図書館やスーパーに外出することでいろいろな人と交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校・地域のボランティアの方々が利用者との交流を通して認知症を理解すると共に、認知症に関する相談を快く受け入れている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催している。家族の代表、行政、地域代表、有識者、施設職員で構成している。施設サービスの近況報告を含め、議題をひとつ設け意見交換している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員や介護保険課・高齢福祉課、生活福祉課などと連携し利用者についての相談や情報交換をしている。社会福祉協議会やわくわく財団と連携し行事で使用する機材を借用し、利用者のサービス向上に取り組んでいる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議で話し合った内容をもとにユニット内でも身体拘束が行われないような意識をもつようにしている。身体拘束防止に関するマニュアルを設けたり施設内研修を行っている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で話し合った内容をもとにユニット内でも虐待が行われないような意識をもつようにしている。虐待防止に関するマニュアルを設け施設内研修も行っている。施設外で研修がある際には積極的に参加するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議やユニット会議、または施設外研修の折に学ぶ機会を積極的に設け、学ぶようにしている。
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には長い時間をかけて重要事項説明及び契約書を説明する。また、家族に不明な点が出たときにはさらに説明を加え理解していただくようにしている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明に苦情受付相談窓口を明記し、窓口を開いている。また、面会時や電話など手段を問わず気軽に相談や苦情等の話が聞けるよう心がけている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションの時間を大切にしながらいつでも話し合える雰囲気作り、及び全体会議やユニット会議での形式的な場面でも意見交換し聞くようにしている。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を設けて、職員の日頃の業務の振り返りが出来るようにしている。また、管理者が面談する時間を設け、やりがいや向上心などを聞ける場面をつくっている。
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて順番に施設外の研修に参加を促している。
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内にグループホーム2箇所があり、月1回2名ずつ交流研修を行い他施設のケアを学ぶことが出来る。地域密着型サービス協議会の会員になっており定期的に交流している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用初期段階では積極的に本人と関わり、要望などを聞き逃さないよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族等の立場になってそれぞれの思いを受け止めるようにしている。施設側が先導しすぎることなく共に前に進むようにしている。
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のおかれている状況や家族等の思いを聞き出し、もし他のサービス利用も考えられる場合にはそれらのサービスを選択肢として提案するようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々一緒に家事やレクリエーションを行うことによって自然に馴染みの関係ができるよう努めている。利用者が生活している空間に職員が溶け込むようにしている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等にしかできない本人への支援を大切に家族と本人の関係を保てるようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を積極的に受け入れ、何度も足を運んで頂けるような雰囲気作りを心がけている。
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内に限らず同じ施設内での交流を大切にしている。一緒に散歩する、会話をするなど機会を積極的につくっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築き上げてきた良い関係を突然断ち切るようなことはしないように、時折電話や封書の手段を用いて相談に応じる姿勢を示している。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりで会話からでる本人の好みや希望をキャッチし要望に沿った支援をこころ
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、家族等に今までの生活歴や暮らしぶりなどを記入してもらえるような様式を作っている。また、面会時に家族等から聞き出し把握するようにしている。
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活支援しながら一人ひとりの生活のリズムや心身の状況を捉えるようにしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族等の意見を聞くとともに、職員が日頃の関わりの中で感じたこと、気づいたことをユニット会議で話し合い作成している。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には毎日の様子を記入し情報を共有している。また、実践にあたっては連絡帳を活用し提案しやすいようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りに付き添うなど、個別のニーズに対応できるよう努めている。協力病院以外の受診でも家族の都合がつかないときには協力するようにしている。コーヒーやタバコを嗜好品とする方に対して柔軟に対応している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設の地域資源はもちろん、一人ひとりが今まで生活していた場所にある資源を参考にしながら入居後も同様の暮らしができるよう支援している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に協力病院の説明を十分に行い、これまでのかかりつけ医から切り替えるかどうか本人及び家族等の意向にそって話し合っている。
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、またはオンコール時に訪問看護ステーションの看護師が訪問して下さる。また、電話での相談にも応じて下さる。
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員は交代で面会に行くようにしている。その際病棟の医療スタッフと係るようにし情報交換している。入院はかかりつけ医の情報を持参し、退院時はスムーズに退院できるよう話し合い進めていく。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化、終末期介護に関する指針」を作成し利用契約時に利用者や家族等に説明するとともに同意を得ている。重度化した場合は主治医や家族、職員間で今後の方針を話し合っている。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応に関する研修を受けたものが全体会議等で職員に伝え知識を共有している。
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も実施している。地域に協力をお願いできるよう日頃からの関係作りを心がけている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に自然な言葉かけで接するとともに、利用者の尊厳を大切にしている。利用者の個人記録等はキャビネットに保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中での要望に対し耳を傾けるようにしている。
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の話を聞き、一日を自由に過ごせるよう支援している。起床時間はその日の利用者の体調によって無理のないように支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に好みを聞いたり家族等に聞いたりして好みを尊重している。好みを表現できない利用者に対しても情報収集してできる限り本人の気持ちに沿うようにしている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットの行事等では、ご本人の好きなものを選んでいただき喜んでいただいている。また、食事の準備から片付けまでの一連の流れの中で利用者が役割を持ち手伝っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の食事量や水分量の観察を欠かさず行っている。量が低下している場合にはチェック表を用いて記録している。
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一日の業務の中に組み込まれており、一人ひとりの能力に合わせて声掛けや介助を行い対応している。入れ歯洗浄剤使用日も決めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄介助にあたっては一人ひとりの能力をきちんとアセスメントし適切な介助を行うようにしている。
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便パターンをつかみ、快適に排泄できるようにしている。運動量や食事水分量を調整したり、医療機関へ相談したりして対応している。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	今までの入浴習慣を尊重するため本人や家族等に聞き、情報収集している。またそれが実行できるよう努めている。
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣があるので皆一斉に同じ生活リズムになることは難しい。一人ひとりの習慣に合わせた就寝時間や起床時間になっている。
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関から処方される薬の薬の説明書きを個人ファイルに保管しておくとともに、通院記録に詳細を記載するようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみごとを本人や家族等から聞きだし、実行できるようにしている。普段からの何気ない会話の中に要望が含まれていることも多いので気にかけるようにしている。
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お菓子を買いたいなどの一人ひとりの希望に出来る限り応じるようにしている。



自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>施設内にある飲み物の自動販売機や近所のスーパーに出かける際事務所保管のお金で支払うこともあるが、本人の能力に応じて所持し使えるようにしている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族等に電話したいという要望は多く電話をかけることの介助をしている。また、友人からかかってくることもあり変わらない関係作りを支援している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関からのホールが広く日当たり良好で開放的になっている。中庭がありいつでもそこを歩くことができるので利用者は自由に出入りしている。季節感を取り入れた掲示物があり整理整頓も行き届き居心地の良い空間になっている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共同空間としての食堂が主に集うことができるが、仲の良い利用者同士フロアの畳に座ったり廊下に椅子を置いて日なたぼっこしたりしている。また、一人になりたいときには居室で自由に過ごすことができる。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に馴染みの食器や家具等を持ってきてもらえるよう説明している。入居後も相談があるとそのように伝えている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の空間においては本人の能力に合わせて障害物を除いたり伝え歩きできるよう家具を設置したりしている。衣類の保管は本人にわかりやすいようにラベルを貼り自ら使用できるよう促している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない